



世界的に高まる、日本の象牙市場閉鎖を求める声

本年5月にスリランカの首都コロンボで予定されていたワシントン条約第18回締約国会議(CoP18)は、コロンボ中心に甚大な被害を出したテロ事件のため、延期となりましたが、8月にジュネーブで開催される運びとなりました。アフリカ諸国が、日本(とEU)を名指して、迅速に国内象牙市場を閉鎖するよう求める「国内象牙市場閉鎖の実施に関する議題」は、スリランカからスイスに舞台を移して議論されることとなります。この提案は、アフリカ32か国から成り、アフリカゾウ生息国36か国中28か国を占める「アフリカゾウ連合」によって準備されたものです。まさに、アフリカゾウの生息国によるゾウ保護の想いが込められた提案といえるでしょう。

5月8日には、ビル・デブラシオ ニューヨーク市長が、国際姉妹都市である東京の小池百合子都知事に書簡を送り、世界最大の象牙市場を擁する日本で象牙取引を終焉させる取組みを支持するよう求めました。ニューヨーク州は、象牙製品の販売を

禁止している米国の9つの州のひとつです。2015年にタイムズ・スクエアで、2017年にセントラル・パークで、押収象牙の粉碎処分が行われています。

この書簡の前日である5月7日には、37名の米国下院議員が、在米国の日本大使に対し、存続の危機にあるゾウを保全するために、日本が世界の国内象牙市場を閉鎖する取組みに加わるよう求める書簡を送っています。この書簡の署名者には、下院外務委員会議長のエリオット・エンゲル議員(ニューヨーク州、民主党)も含まれています。



米国下院議員37名による書簡上の署名(一部)

日本は、「ゾウを救おう」という国際社会の熱意に、まさしく包囲されつつあります。日本の政策の「象牙よりもゾウを大切にする」方向への大転換は、目の前まで迫っていると感じます。



ニューヨーク市長から小池都知事に宛てられ書簡

トラ・ゾウ保護基金は、5月31日、最新報告書「日本の国内象牙市場を閉鎖しなければならない5つの理由」を公表しました。



JTEFのウェブでダウンロードできます。

この本報告書は、市場閉鎖以外、日本の象牙の違法取引を撲滅するための選択肢はないことを、最新のデータと情報に基づいて明らかにしています。



JTEFの報告書を報じた新聞記事

「閉鎖しなければならない5つの理由」は、次のとおりです。

1. 日本の合法的象牙市場は、象牙の違法輸出に対して極めて脆弱である。

2011年から2016年の間に、148件の日本からの象牙の違法輸出が記録され、うち113件(総重量約2.3トン)は中国への輸出でした。



中国人が、日本の大手象牙業者から象牙を買い入れていたことを報じるTVニュース

そして、このような密輸出は依然として続いています。2019年4月15日に中国税関は、大阪からウルムチ(中国新疆ウイグル自治区の首府)への密輸出事件を発表、この件にかかわった犯罪グループは、日本に滞在する販売代行を通じ、インターネット・オークションで象牙を買付け、税関を欺くため、内容を偽ったり、合法的に送ることのできる物の中に隠して、国際郵便で送らせていました。これらの者による象牙買取りのネットワークは、11の省の14の都市に張り巡らされていたこともわかっています。



2. 繰り返される違法な国内象牙取引が厳しく処罰されていない。

国内で行われる違法な象牙取引の摘発は、2014年は全国で1件でしたが、15年は3件、16年は6件、17年が8件で、18年には14件に達しています。ところが、罰則の法定刑引き上げにもかかわらず、検察官は一貫して厳格な処罰を回避、実際には違反者が不起訴か、せいぜい略式命令で罰金の納付を求められるだけというように、日本司法の象牙の違法取引への甘さが明らかになっています。

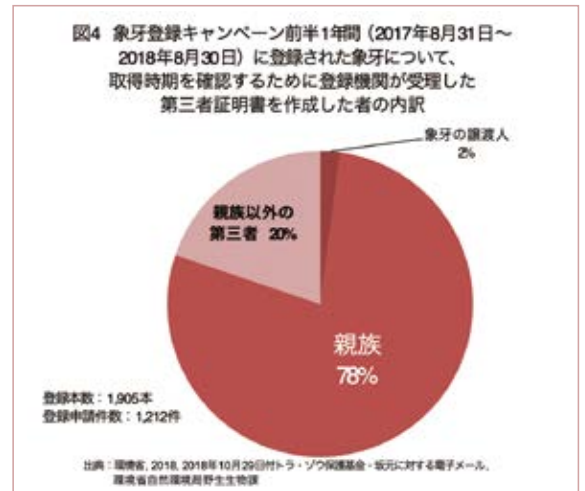
3. 法の抜け穴を利用する虚偽登録が蔓延しているにもかかわらず、政府が登録を促進したため、出所不明の象牙が合法化され、在庫され続けている。

日本政府による全形象牙の登録促進は、信用性のない象牙の持主の親族や知人の「一筆」で登録を許すという、手段を択ばぬやり方によって支えられてきました。法律上、全形象牙の登録は取引の条件とされているのですから、政府は、取得経緯・時期不明の全形象牙



環境省の登録キャンペーンポスター

がロンダリングされてしまうリスクを黙認して、大量の象牙を合法市場に供給し続けていることとなります。2017年9月から2018年の8月までの1年間で、1,905本もの象牙が登録されてしまいましたが、その98%は、このような一筆で登録されていました。



2018年10月には、宮城県警らによって、組織的な犯罪グループによって、この抜け穴が利用され、虚偽登録が行われていたことも明らかになりました。

4. 全形牙のみを登録対象とする法の抜け穴に付け込んで、全形牙に対する将来の規制強化を無力化しようとする象牙業者の対策が進行中である。

「登録しなければ売り買いできない」という規制の対象になるのは、全形牙だけに限られています。日本政府は、将来、全形牙の登録手続を厳格化することをちらつかせてきましたが、象牙を加工する製造業者らは、「規制対象が全形牙だけ」というこの抜け穴を利用し、全形牙全数登録の期限の前に、全形牙を分割し、以降はカット・ピースの形態で原材料用象牙を在庫し、取引し始めたことが、カット・ピース在庫の激増などのデータにあらわれています。



5. 日本の象牙需要および市場は、近い将来、拡大するおそれがある。

象牙製ハンコの業者在庫の分析から、製造業者は象牙印章の製造を急増させ、小売業者は、卸売業者の在庫が減少するほど積極的に、象牙印を買い込んでいくことがわかりました。



日本の象牙市場で、象牙印に対する消費需要が刺激されつつあるといえます。また、近年の中国、香港の市場閉鎖の動きを考えれば、近い将来、中国等の象牙市場における需要が日本へ移転する、というシナリオが現実のものとなるおそれもあります。

本報告書は、公表直前に日本政府および条約常設委員会のメンバー国に提出されました。日本政府に対しては、甘い認識を捨て、CoP18までに象牙市場維持の政策を転換することを迫り、常設委員国に対しては、自らの属する地域の他の締約国と共に、CoP17で採択された国内象牙市場閉鎖決議に明確に違反する日本の国内象牙市場維持に対して厳しく処するよう求めています。

「7月1日から全形牙登録審査の厳格化」は、時すでに遅し？

6月7日、環境省は、「全形を保持した象牙の登録審査方法の厳格化に係る運用について」記者発表を行いました。



7月1日以降は、放射性炭素年代測定が求められることとなります。ようやく、「家族の一筆だけではダメ」になったわけです。

しかし、この1年9か月をかけて環境省が行った「登録促進キャンペーン」の成果もあって、国内の登録全形牙は既に160トンも在庫されています。これに事業者の持つカット・ピース70トン、在庫量がまったく不明のその他の象牙が加わります。7月1日までに既に在庫された大量の象牙については、放射性炭素年代測定が求められることはありません。これらの取得時期の怪しい象牙は、引き続き、違法象牙の隠れ蓑として、また海外への違法輸出の供給源として機能し続けることになるでしょう。

ご寄附のお願い

2月末発行の年次報告書で、ワシントン条約第18回締約国会議参加へのご支援をお願いしてきましたが、(ジュネーブで8月16日常設委員会、17～28日CoP18) 引き続きご支援をよろしくお願いいたします!



ジュネーブでの常設委員会(2017年)



トラ・ゾウ保護基金
お薦めの本



ナショナルジオグラフィック キッズ
ミッション・ゾウ・レスキュー
(ハーパーコリンズ・ジャパン)
5月新刊

アフリカゾウもアジアゾウも、たくさんの生きものたちと大自然を分かちあっている。ゾウを絶滅させてはならない！ゾウを守ることは、地球を守ることなのだから。トラ・ゾウ保護基金も制作に協力し、その活動も紹介されています。

著者：アシュリー・ブラウン・ブリュエット
日本版企画監修：田中直樹(ココリコ)
定価：本体1,600円(税別)

ナショナルジオグラフィック キッズ
ミッション・トラ・レスキュー
(ハーパーコリンズ・ジャパン)
3月新刊

トラを知らない人はいない。でも、野生にはたった4000頭しかいないって知っていた？人間による密猟や、森林伐採が原因だ。絶滅したら、なにが起きる？どうすれば絶滅を防げる？トラ・ゾウ保護基金も制作に協力し、その活動も紹介されています。

著者：キットソン ジャジンカ
日本版企画監修：田中直樹(ココリコ)
定価：本体1,600円(税別)

牙：アフリカゾウの「密猟組織」を追って
(小学館) 5月新刊

元アフリカ特派員の筆者は、密猟で動くカネが過激派テロリストの資金源になっている実態に迫り、背後に蠢く中国の巨大な影を見つける。

そして問題は、象牙の印鑑を重宝する私たち日本人へと繋がっていく。選考委員満場一致の第25回「小学館ノンフィクション大賞」受賞作。

2016年南アフリカで開催されたワシントン条約会議の取材には、トラ・ゾウ保護基金が協力。本作の中にも登場。

著者：三浦英之
定価：本体1,600円(税別)

イベント 2019
INFORMATION

JTEFのウェブサイト
をリニューアルしました！

情報充実+スマホ対応
+オンラインでのご寄附も便利に。
www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

JTEFの活動を
ご支援ください！

JTEFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

年間サポーター費・随時寄附の
★お支払方法★

JTEFのウェブサイトからクレジットカードで簡単に寄附いただけます。
www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

郵便振替でもご寄附いただけます。

ゆうちょ銀行

口座番号：00170-7-355897

加入者名：トラ・ゾウ保護基金

JTEFを支えるチャリティパーティー

7月6日(土) 18:00～20:00(17:30開場)

場所：ピヤステーション恵比寿

主催：JTEFの活動を支えるチャリティー実行委員会

「世界トラの日」イベント

7月28日(日)

場所：上野動物園

JTEFトラ保護応援グッズの販売など。

*時間は未定ですが、日中の実施となります。猛暑日になりそうな場合は、来場者の安全確保のために中止になることがあります。

「世界ゾウの日」イベント

8月12日(休日の月)

場所：上野動物園

JTEFスタッフと上野動物園ゾウ飼育担当者とのゾウ保護トーク、JTEFゾウ保護応援グッズの販売など。

*時間は未定ですが、グッズ販売は午後5時頃にはスタート、トークは6時30分頃の開催となります。

ナマステ インディ2019

9月28日(土)・29日(日)

場所：代々木公園B地区

JTEF保護活動パネルの展示、保護応援グッズの販売など。

ディワリ・イン・ヨコハマ
2019

10月の土日2日間(日程は未定)

場所：山下公園

JTEF保護活動パネルの展示、保護応援グッズの販売など。



去年の様子



認定NPO法人

トラ・ゾウ保護基金

<http://www.jtef.jp/>

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-5-4 末広ビル 3F
Tel: 03-3595-8088 Fax: 03-3595-8090
E-mail: hogokikin@jtef.jp <http://www.jtef.jp>
郵便振替口座：ゆうちょ銀行 口座番号) 00170-7-355897
加入者名) トラ・ゾウ保護基金

ゾウ保護基金通信 vol.30
発行日：2019年6月28日
発行人：戸川久美
編集：坂元雅行
デザイン：土肥優子